

第2章 聴覚障害教育における教科指導及び教材活用

第1節 文部科学省の教材機能別分類

文部科学省の教材機能別分類表[※]では、教材の機能を大きく次の4つに分類している。

①発表・表示用教材：

児童生徒が表現活動や発表に用いる、又は児童生徒が見て理解するための図示・表示の機能を有する教材

②道具・実習用具教材：

児童生徒が実際に使って学習・実習の理解を深める機能を有する教材

③実験観察・体験用教材：

児童生徒の実験観察や体験を効果的に進める機能を有する教材

④情報記録用教材

情報を記録する機能を有する教材

また、「教材機能別分類表（聾学校）」では、全体を通じた留意点として、「児童・生徒の障害の状態や特性等を十分考慮することが必要である。また、コンピュータ及びその周辺機器やコミュニケーション支援機器を有効に活用し、指導の効果を高めるようにすることが望ましい。」と示されている。

近年、教育の情報化に伴い、学校には大型ディスプレイや液晶プロジェクターなどの配備が進んでいる。特別支援学校（聴覚障害）も例外ではなく、授業形態そのものも変化の兆しが見られる。これまで聴覚障害教育においては、集団補聴器等が整備され、聴覚障害児童生徒の聴覚活用に大きな役割を果たしてきた。また、コミュニケーション手段の多様化傾向に伴い、視覚教材が実際の指導に取り入れられている。

※ 「教材機能別分類表」平成13年11月5日付け文科初第718号 初等中等教育局長通知 文部科学省ホームページで閲覧することができる。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kinou/main12_a2.htm

第2節 聴覚障害教育における教科指導

聾学校における教科指導において、教材の果たす役割や教材開発を検討したものとして、田中（2007）らは、聴覚障害児童生徒の書記表現力の指導の実態に関して現状を把握するため、全国の聾学校小学部・中学部を担当する教員127名を対象にアンケート調査を行った。そして、書記表現力の指導は、「国語科」の時間内だけでなく、「自立活動」や「放課後・昼休み」など教科外でも指導の機会が頻繁に設けられていた。また、教材に関して、「日記」や「感想文」など児童生徒の書記表現力の基礎を形成するために効果的と考えられる教材が選択されていたなどの結果から、聾学校においては、児童生徒の書記表現力の向上に向けた実質的な指導が展開されていることが示唆されたと報告した。また、仲野

(2010)らは、前報では助詞検定の基本的考え方、教材事例及び実施状況を紹介し、インターネットを活用した「Web 助詞検定」について検討した。

理科教育について、中村(2008)らは、体験的活動を通して生徒の理数科学習への興味・関心・意欲を向上し、聾学校の理数科指導を改善できるのではないかと考え、携帯電話で操作するロボット教材を活用した指導を試みた。

また、林田(2012)らは、外国語活動の活動内容などについて情報を得ることを目的として、特別支援学校(聴覚障害)小学部の教員に対して質問紙調査を行った。その結果、多くの学校が、全面実施に向けた指導体制や具体的活動内容、コミュニケーション環境の整備、教材・教具、教科・領域との関連性について検討を進めていたことを報告した。

このように、特別支援学校(聴覚障害)における教材は、書記言語力の向上を目的としたり、教科や外国語活動等でICTやインターネット等を活用したりするなど、全教育活動において様々な活用が図られ、重要な意味を有するものである。

第3節 視覚教材

聴覚障害児に対する、視覚教材に着目した研究が進められている。金子(2008)らは、聴覚障害生徒がe-黒板を用いて作文の誤りを直す際の映像を組み込んだマルチメディア教材を製作し、聾学校中学部生徒52名を対象として、この教材を活用した授業を行った。その結果、(1)作文の誤りを直す映像に関して、興味・関心が認められ、(2)字幕の色や大きさなどの映像付加情報への着目が見られたこと、(3)考え方を説明した字幕付きの映像が有用であると評価した生徒が多かったことが示された。e-黒板の利点は生徒の思考過程を視覚的に表現でき、作文の誤りを直す学習においても、効果が期待できると報告した。また、佐藤(2011)らは、難聴児・者への言語獲得支援を目的として視覚を生かした教材開発を行うため、聴覚障害者の視覚情報認知を検討した。そして、タッチパネルディスプレイパソコンの使用は、検査の操作が簡単で、かつパソコン使用に慣れていない被験者に対しても年齢を問わず受けやすい検査であり、年齢の低い幼児や学童を対象にして有効に活用できる可能性があるとして報告した。

聴覚障害児への視覚教材の活用場面として、水谷(2008)らは、人工内耳を使っている子どもの通常の学校生活や学習場面での配慮として教室環境や座席の位置、先生の話し方や授業での視覚的教材の活用など、人工内耳を使用した子どもの理解を助ける工夫が必要であると報告した。更に、大島(2005)らは、音韻が情報として入りにくく定着しにくい聴覚障害幼児への適切な指導方法を確立することは、保護者支援の領域でもあると考え、音韻獲得のためには概念を先に入れていくべきであるというトップダウンの考え方に基づいて、家庭でも活用できる視覚的な教材を作製した。

視覚教材は聴覚障害児の指導に有効であることから、ICTを積極的に導入する重要性や、通常の学校や保護者の連携や理解により効果が発揮されることを示唆している。

第4節 手話教材

近年、授業における手話の役割の重要性から、手話教材に関する研究も進められている。高橋（1994）らは、コンピュータを使った初心者用の手話教材の自学自習システムの基礎的研究とそのためのプログラムの開発を試み、デジタル動画のシステムを単語と文のレベルで開発試行することにより、手話学習教材のもつ問題点と解決の方向を探った。また、野本（2006）らは、聴者の両親を持つ3歳代から5歳代の聴覚障害幼児8名を対象に、日本語対応手話と音声言語の同時提示によるビデオ教材を視聴させ、聴覚障害幼児のコミュニケーション行動にどのように影響を及ぼすかを検討した。そして、教材を提示する前後の比較において、提示後の方が手話単語の熟知度の成績が向上していたと報告した。

聾学校で保有する手話教材については、その量も十分とは言えない状況にある。授業に際しては、教師と子どもの実際のコミュニケーションが基本となるが、授業のねらいや指導内容に応じた手話教材の在り方、活用に関する検討が今後ますます必要となるであろう。

第5節 コミュニケーション手段と教材

上記の研究や実践から、特別支援学校（聴覚障害）における教材は、コミュニケーション手段との関連で検討されている状況があった。

表1に、特別支援学校（聴覚障害）の幼稚部から高等部で使用されているコミュニケーション手段と教材との関連を示した。コミュニケーション手段は、発達段階や子どもの状態、学校の方針等に応じて変化していくことが想定される。また、学部で単独の使用教材や各部共通の教材があることも踏まえる必要がある。

表1 特別支援学校(聴覚障害)におけるコミュニケーション手段と教材

学部	コミュニケーション手段	教材（学校保有教材・自作教材）
幼稚部	ことば(音声・手話) 発音サイン 絵カード(絵、写真、模型等) 実物	絵カード、(絵、写真) 模型、実物、絵本、紙芝居、絵日記、掲示物 自作教材（「再現遊び」や絵本） 発音指導用教材
小学部 中学部 高等部 専攻科	ことば(音声・手話)、書記言語 発達段階によるコミュニケーション手段の変化	「読む・書く・聞く・話す」4領域に関する教材 電子黒板 副教材、リライト 視覚教材 発音指導用の教材、学習テキスト 聴覚活用のための教材（CD、DVD、楽器等）

【引用文献】

- 1)田中耕司,斎藤佐和,聴覚障害児の書記表現力の指導に関する調査,特殊教育学研究,45(3), 137-148, 2007
- 2)仲野てる子,向井星十,松田明美,田川由美,藤立勝大,後藤豊,大塚和彦,細谷美代子,ろう学校における「助詞検定」の作成と実施,電子情報通信学会技術研究報告,教育工学 109(387), 55-60, 2010
- 3)中村好則,後藤豊,携帯電話で操作するロボット教材の聾学校における可能性,日本教育工学会論文誌 31(Suppl.), 81-84, 2008
- 4)林田真志,石田久美,特別支援学校(聴覚障害)小学部における外国語活動の実施にむけた動向:担当教員に対する質問紙調査をとおして,広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要 no.10 page.7-13, 2012
- 5)金子俊明,廣瀬由美,渡邊 明志,聴覚障害生徒に対する作文指導におけるマルチメディア教材の効果:e-黒板を活用した"作文の修正"を中心に,障害科学研究 32, 185-193, 2008
- 6)水田重幸,都築繁幸,人工内耳装用児の学校生活の実態に関する一考察(2),愛知教育大学教育実践総合センター-紀要 (11), 95-100, 2008-02
- 7)佐藤のぞみ,杉田克生,下山一郎,タッチパネルを用いた難聴児・者への言語学習支援,千葉大学人文社会科学研究 no.23 page.257-273
- 8)大島光代,都築繁幸,聴覚障害幼児の言語発達支援に対する視覚教材適用の試み,愛知教育大学教育実践総合センター-紀要 (8), 231-236, 2005-02
- 9)高橋信雄,松下剛,初心者用手話学習教材の開発と問題点,電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学 94(278), 25-32, 1994-10-15
- 10)野本裕子,都築繁幸,聴覚障害幼児の日本語対応手話の習得に及ぼす手話ビデオ教材の効果.治療教育学研究 26, 67-74, 2006

(原田 公人)